

年表：ProSAVANA 事業における農民・市民社会組織との「合意形成」の課題【作成 12月17日】
 (モザンビーク農民・市民社会組織、日本 NGO からみた「参加」「コンサルテーション」に関する認識の推移)

年月	ProSAVANA 事業 出来事 (政府)	政府と日本市民社会 との対話	政府による現地農民・市 民社会組織との対話	現地農民・市民社会組織 の動き	現地農民・市民社会による「参加」「協議」に 関する理解
2009年9月	ProSAVANA3 か国合意				
2009年10月～ 2010年3月	ProSAVANA 準備調査 (JICA)				20 農家インタビュー (大中小含む)
2011 年度～	研究能力・技術移転向上支援 (ProSAVANA-PI)				
2011 年 11 月	ProSAVANA-PD 合意				
2012 年 2 月～	ProSAVANA-PD に基づくマ スタープラン策定開始 (JICA)				
	PD インセプションレポート 発表 (コンサル@JICA 研究 所)				
2012 年 4 月	PD 第 1 回ステークホルダー MTG (マスタープラン策定の 調査手法に関するもの)		第 1 回ステークホルダー MTG (Nampula, Lichinga, Quelimane, A. Molocue)	合計 10 人の農民 (Lichinga, Quelimane 皆無)、NGO はドナーと一緒にカウントされ人数不明。Quelimane 皆無。最大でもドナー入れて 5 名以下。「農業省に呼ばれたから行っただけ。参加や合意形成のためのものと認識していない」	
2012 年 4 月 16 日～20 日	日・ブラジル・モザンビーク 官民合同ミッション派遣				地元農民組織・市民社会との会合なし。政府・ ビジネス関係者のみとの会合が首都、Nampula と Lichinga で実施。
2012 年 4 月～8 月				UNAC・ORAM の ProSAVANA 独立調 査開始	
2012 年 8 月				ProSAVANA 関係者への調査結果開示 とコメント受付	実質的な事業内容に関する会談 (しかし CSO 側が要請して実現)
2012 年 9 月	ProSAVANA Development Initiative Fund(PDIF) 開 始				
2012 年 10 月 11 日				UNAC による ProSAVANA 抗議声明「我々農民は、透明性が低く、プロセスの すべてにおいて市民社会組織、特に農民組織を排除することに特徴づけ られるモザンビークでのプロサバナナの立案と実施の手法を非難する。	
2012 年 10 月下 旬				Niassa 農民組織・CSO による農業省出 先機関での日本大使への面談要求	州農民組織 UPCN、農民相互扶助組織 ORAM が参加し質問するも回答不十分で不満を高め る。
2012 年 11 月	第 2 回ステークホルダー MTG (Nampula, Maputo)		第 2 回ステークホルダー MTG (Nampula, Maputo)	Niassa や Zambezia 州では開催せず。Nampula で農民 4 名、Maputo でゼロ。NGO は ドナーとカウントされ 3 名と 10 名。 出席 NGO (Nampula & Maputo) から、会議の在り方の問題点 (対話でなくただの説明 会)、「(事業内容について) 不透明性が増した」の声あり。	

年表：ProSAVANA 事業における農民・市民社会組織との「合意形成」の課題【作成 12月17日】
 (モザンビーク農民・市民社会組織、日本 NGO からみた「参加」「コンサルテーション」に関する認識の推移)

2012年11月15日		NGO 主催 JICA 坂口幸太氏 ProSAVANA に関する講演会			「対話はしている」との説明有。 Nampula の IKURU と Niassa の ALIMI と「良い対話」との説明。UNAC 抗議については、「情報伝達不足による誤解」「モザンビーク政府に市民社会に対応してもらおう」との返答あり。
2012年11月	ナンブーラに JICA 専門家らが訪問し、「PRODECER の成功を ProSAVANA に」を宣伝				参加した現地市民社会・農民組織の不安広がる。
2012年12月14日		NGO・外務省定期協議会 ODA 政策協議会 (UNAC 声明を受けての NGO 側議題提案)			外務省：「準備調査で農家 (20 家) と話した」「UNAC は 4 月の第 1 階ステークホルダー会議に参加 (故に対話あり)」と説明。
2013年1月25日		第 1 回 NGO・外務省 ProSAVANA 意見交換会開催		第 2 回ステークホルダー参加 NGO (JA!) より協議の手法への異議表明 (「対話と呼べず」「不透明」)	
2013年2月22日	JICA 理事長のモザンビーク訪問。「正確な情報を地元農民や現地の人々へ共有するためモザンビーク政府のオーナーシップ期待」と発表				
同日	ProSAVANA による対象全 19 郡での District Meeting (Consultative Council) 開始		ProSAVANA による対象全 19 郡での District Meeting (Consultative Council: CC) 開始	CC と郡都で開始。(3 月までに Nampula 及び Zambezia 州) 現地市民社会「CC は政権与党の下部組織」「選挙のためのバラマキ」との理解。	
2013年2月下旬				UNAC 代表・JA! スタッフ来日。外務省表敬訪問 (26 日)。議員会館での学習会 (27 日)、北大 (25 日)、東大でのセミナー (28 日) で講演	NGO 側から JICA へのセミナーへの繰り返しの参加要請への辞退が、当日参加に変更。但し「何故中国やヨーロッパ投資を問題にしないのか」の会場での質問。また終了後、「すべて誤解」とコメント有。
2013年2月28日	ProSAVANA による対象全 19 郡での District Meeting (Farmers meeting) 開始		ProSAVANA による対象全 19 郡での District Meeting (Farmers meeting) 開始	Farmers meeting が各郡都で開始。(3 月までに Nampula 及び Zambezia 州) 現地市民社会、「CC 同様、郡都にいる OJM, OMM 等の政権与党に近い者が集められている」「選挙のためのバラマキ」との理解。	
2013年3月9日		第 2 回 NGO・外務省 ProSAVANA 意見交換会開催			
2013年3月13日			参議院 ODA 委員会議員訪問時の UNAC と 3 人の議員+日本大使+JICA 所長の面談	当初は日本大使館での開催が、帰国予定の変更でキャンセルになっていたにもかかわらず大使館は UNAC に連絡せず、また議員の時間変更要請	

年表：ProSAVANA 事業における農民・市民社会組織との「合意形成」の課題【作成 12月17日】
 (モザンビーク農民・市民社会組織、日本 NGO からみた「参加」「コンサルテーション」に関する認識の推移)

			(マプート空港)	も知らされないまま。日本 NGO の調整で、最終的に空港で面会実現。大使と JICA 所長が「(今後は) 誠実に対応」と約束。	
2013年3月18日(N)、21日(M)	第3回ステークホルダー MTG(Nampula, Maputo)		第3回ステークホルダー MTG(Nampula, Maputo)	UNAC、JA!等、本件に問題意識を持った多くの NGO が参加	Maputo 参加 NGO によると多くの疑問に「実のある返答はなく、時間による質問打ち切りがあった」との見解。Nampula でも CSO の関与のなさについて問題提起。
2013年4月2日	JICA's ProSAVANA High Level Seminar モザンビーク農業大臣・各州知事・農業省関係者・ProSAVANA 関係者・ブラジル ABC, EMBRAPA, FGV	日本 NGO に一切連絡なし。NGO による JICA への繰返しの問合せに対し「来日農民組織」がどこか開示されず当日も伏せられる。		モザンビークから唯一「農民組織代表」として農業省が選び、UPCN (UNAC の Niassa 州支部) のコーディネーターが来日。	UNAC 下部組織である点、ProSAVANA に関する問題提起が JICA スタッフによる PPT 改変により削除される。NGO との面談時、JICA スタッフが、「UPCN が疑問を農業省に投げたから招待」を「ProSAVANA への期待を日本人に小農として説明するため来日」と訳す。
2013年4月上旬				国際 NGO ・ GRAIN による PD Report1&2 のリーク	
2013年4月17日				国際小農デーでの UPCN (UNAC ニアサ州下部組織) による ProSAVANA 批判声明と ProSAVANA 抗議マーチ	
2013年4月19日		第3回 NGO ・外務省 ProSAVANA 意見交換会開催			日本 NGO 側、4月2日セミナー問題(連絡、情報開示)、UPCN 批判声明と抗議マーチ紹介、ProSAVANA 農村集会問題(手法・時間)指摘。
2013年4月29日				リーク Report の分析に基づくモザンビーク・国際 NGO 「共同声明」発表	
2013年5月9日		第4回 NGO ・外務省 ProSAVANA 意見交換会開催			
2013年5月7日~9日				UNAC 全国農民集会「グイア宣言」にて「全国の農民男女のほとんど全面的な排除と不在の下で承認されようとしている農業政策への代替案を提案する」	
2013年5月下旬-6月上旬				UNAC 代表・Nampula CSO Platform 書記長の来日。	
2013年5月28日				23 団体による 3 か国首脳への「公開書簡」発表・外務省表敬訪問(28日)・JICA との個別ミーティング(30日)	NGO 側からの要請で JICA との個別面談が実現。JICA が「対話の前提」としての緊急停止ではなく、「手法」に拘ったため同意は得られず。
2013年6月後半から	(PDIF の第二次公募説明会を 3 州で開催)				現地 23 団体(公開書簡署名)も ProSAVANA 意見交換会参加の日本 NGO も知らされず。
2013年6月18日			会合前日、農業省 ProSAVANA FP+JICA が PPOSC 事務局長一人を夕食に誘う。		PPOSC 相談し 3 名で行くものの、共同コミュニケーション作成を合意させられる。

年表：ProSAVANA 事業における農民・市民社会組織との「合意形成」の課題【作成 12月 17日】
 (モザンビーク農民・市民社会組織、日本 NGO からみた「参加」「コンサルテーション」に関する認識の推移)

2013年6月19日			農業省と PPOSC-N 対話		開始前に共同コミュニケ案が提示され、参加者の抗議がある。
2013年7月12日		第5回 NGO・外務省意見交換会			外務省「現地市民社会が準備出来るまで待ちたい」との意見も、既に PDIF 二次公募実施（その説明なし）。
2013年8月8日			モザンビーク農業大臣、首相代理の右記会議への参加あり。日本・ブラジル政府代表者らの発表機会が設けられたものの欠席。	UNAC・ORAM 共催 ProSAVANAに関する3か国民衆会議（「公開書簡」署名 23 団体の代表参加）	大使館も JICA も欠席の理由を「直前の招待のため」とするが、代理出席や担当者の出席は行わず。モザンビーク政府側代表は真摯に疑問に応えよう、対話をしようという姿勢はあった。
2013年8月8日			PPOSC-N 事務局長個人名宛、Master Plan 予定送付		他州の CSO プラットフォーム、UNAC その他の Stakeholder 会議参加者らへの送付がなく PPOSC 「一本釣り」との認識深まる。
2013年8月中旬			農業大臣、ProSAVANA 反対者は「陰謀者」と語る一方、情報不足を認め「コミュニティレベルでの説明を推進する」と談話		
2013年8月13日				PPOSC の会議での MP 予定表協議	「一方的な提案・方法」と PPOSC メンバーが強く反発。PPOSC として仕切り直しを求めるメール送付。
			農業省 Nampula 州局長の市民社会呼び出し（同席 ProSAVANA FP2 名 +JICA コンサル 2 名）	PPOSC 代表 2 名と日本 CSO1 名	局長からの携帯への繰り返しの呼び出しに対応し「表敬訪問」。面会中、言論の自由を侵害する発言が局長と同席農業省関係者に行われる。
2013年8月28日-29日				北部3州農民大会（政府・農業省関係者、ProSAVANA FP が出席）	ProSAVANA FP による UNAC 代表への発言が「脅迫」として受け止められる。
2013年8月30日			ProSAVANA FP による UNAC 外 Niassa NGOs への協力要請		UNAC 外しへの UNAC 反発。
2013年9月3日			PPOSC に共同作業部会提案：FP による UNAC 非難、UNAC 以外の NGO に「対話」と「マスタープランにアラインするための集会協力」に合意と言及		他方、Niassa 州市民社会プラットフォームへの正式要請なし。PPOSC、UNAC、ニアサ市民社会プラットフォーム、その他 NGO の反発
9月13日/18日			ProSAVANA マスタープラン策定チーム	PPOSC、9月3日会合その他を問題視し会合キャンセル	
2013年9月19日			ProSAVANA FP による PPOSC 議長宛レターで一方的に 24 日の会議を告知		PPOSC に「圧力」として受け止められる。
2013年9月23日			ProSAVANA チームの Niassa 州クアンバでの「コンセプショナルノートに関するディベート」開催後にコミュニケ発表		UNAC、PPOSC 反発。

年表：ProSAVANA 事業における農民・市民社会組織との「合意形成」の課題【作成 12月17日】
 (モザンビーク農民・市民社会組織、日本 NGO からみた「参加」「コンサルテーション」に関する認識の推移)

2013年9月30日		NGO・外務省/JICA 対話 (参議院議員会館)		日本NGO「早急なる中断と抜本見直し」声明	
2013年10月3日 (日付は9月30日)				PPOSC-N 抗議声明をプレスリリース発表	UNAC 排除批判 JICA が名指し批判
2013年10月17日			ProSAVANA チームによる再度のPPOSC-N事務局長への夕食誘い		PPOSC-N 工作と理解、反発
同日			10月18日に意見交換会出席依頼		PPOSC-N、出席拒否 この間の圧力が増す
2013年10月21日			政府軍によるRENAMO党首拠点の軍事襲撃、政治情勢の不安定化、市民の誘拐が相次ぐ (警察関係者関与)		
2013年10月下旬～現在			和平合意の破棄と、軍事衝突の頻発 ナンブーラでも軍事衝突あり		PPOSC-N メンバー、不安を感じる一方、コンセプトノートの問題点が多く、このまま黙っていると通ってしまうことを危惧し、11月4日に意見表明会議開催を同意。
2013年11月1日					PPOSC-N：いつもProSAVANA 側に行われる事前の議事録作成を情報操作として拒否
2013年11月4日 (ナンブーラ)			ナンブーラでPPOSC-NとProSAVANAチームについてコンセプトノートに関する意見表明会議	35項目にわたる批判	同意なしの録音と録画をPPOSC 側が発見し審議中断。2項目目までの発表。溝。次回に持ち越す。
2013年11月4日 (マプート)			UNACと農業省の政策レベル協議 (プロサバンナは議題ではない) の場に、突然プロサバンナ事業の関係者 (農業省・JICA・ABC) が現れ、その場で「プロサバンナ事業について協議」を要求		UNACは、このような強要に反発。密室の一団体とだけの会議を拒否し、「公開書簡」への返答を要求
2013年11月～12月			ナンブーラでPPOSC-Nがコンセプトノートに関する意見表明会議で35項目全部の説明を行う。		以上「意見表明会議」を開催。35項目を一つずつ発表。合意と思われるところを毎回その場で確認。しかし、元々のコンセプトの基盤が間違っているのでは、このまま村落で説明不可能と主張。
2013年11月21日			「公開書簡」署名団体に呼びかけ、対話の在り方の会議 (「プロサバンナ事業の協議」ではなく「協議のための協議」と念押し)		しかし、政府側は「プロサバンナ事業の対話参加者一覧」への署名を要求し問題に。必要な資料を全部開示して「対話」に向けた準備を行うと農業省側同意。(※12月17日現在、約束果たされず)